



- 2015/12/06 @ 首都大 -



UNISASとは?



UNISAS (UNISEC Alumni Association)

- 2006年発足
- UNISECのOB/OG組織
 (UNISON (UNISEC Student Organization)の卒業生が集まり活動を実施)
- 参加者:100名以上(2015年度現在)

UNISASの方針



学生時代に切磋琢磨した仲間同士で、卒業後も 引き続き積極的に交流し親交を深めること



お世話になったUNISECへの恩返しの意味も込めて、 現役学生に対する各種サポートを行うこと



他業種に渡るUNISASメンバー間での交流を通し、新たな可能性を生み出すこと

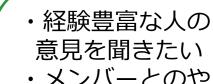
UNISASは「宇宙」というキーワードでつながった縁を大切にし、UNISEC卒業生が時には気楽に、時には真剣に交流できる、息の長い組織を目指して活動しています。

UNISEC

UNISON

🞎 UNISON/UNISAS合同イベントとは?? 🤄





・メンバーとのや り取りは円滑に 進むか??etc…

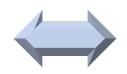
- ・卒業後も仲間と 交流したい
- ・UNISECに恩返し したい
- ・新しい可能性を 生み出したい



UNISON/UNISAS交流会

~Since 2007~





UNISAS

UNISON/UNISAS交流会を通じて

- ◆現役学生が抱える悩みを聞く機会を設ける
- ◆身近なUNISASを通して就活事情等を聞く機会を設ける
- ◆UNISASが持っている豊富な経験から考えるヒントを与える
- ◆優秀な学生たちとたくさん知り合える
- ◆将来的に面白いことが出来そうという期待・機会を貰える





「今年1年間でUNISONは発展しましたか?」

をテーマにUNISONにディベートしてもらいます!!





今回のテーマ

「今年1年間でUNISONは発展したと思いますか?」

- 今年のUNISONの活動を振り返る
- 何をもって発展と言えるか考える
- ディベートを踏まえ来年の見通しを立ててもらう







- ディベートのやり方
 - ➤ 衛星・ロケット・Cansatの3つのWG毎に分割
 - □同じWGで議論することで何をもって発展なのかを分かり易くする
 - □衛星WG×2, ロケットWG×2, Cansat×1
 - ➤ WG内でも以下の観点でグループ分け
 - ■大学が別々である
 - □高/低学年が固まっていない
 - ▶ 肯定派/否定派の割り振りは直前に分かる
 - ■ランダムで決定
 - □グループ割り振りは各部屋に貼り付け済







肯定派				否定派		
		Cansat A			Cansat B	
平澤 遼	M2	Keio Team Wolve'Z	中村将大	M1	東京理科大学木村研究室	
齋藤嶺	M1	電気大学高玉研究室	波田野 恭祥	M1	Keio Team Wolve'Z	
土居大晃	M1	東京理科大学木村研究室	海老沢拓	B4	東京理科大学木村研究室	
大野幹和	В4	東京理科大学木村研究室	梅内祐太		電気大学高玉研究室	
仲田航也		電気大学高玉研究室	須藤順平		鹿児島大学	
藤本剛史		CORE	片岡寛晶		鳥取大学宇宙開発研究会 TSATプロジェクト	
石井達也	B1	東京工業大学CREATE	711.12044		ING. NO. 1. J. P. DOSS WILLIAM ST.	
ロケット A ロケット B						
植松 千春	B4	東海大学チャレンジセンター学生ロケットプロジェクト	八島京平	B4	東京工業大学CREATE	
<u>[E [C </u>		九州工業大学宇宙クラブ	津地 歩		大阪府立大学小型宇宙機システム研究センター ロケットプロジェクト	
川浜悠		大阪府立大学小型宇宙機システム研究センター ロケットプロジェクト	吉田岳晋		CORE	
中村靖子	B3	秋田大学学生宇宙プロジェクト	近藤健太郎		秋田大学学生宇宙プロジェクト	
岩崎愛樹	B2	CORE	市岡大志		芝浦衛星チーム	
互呵返倒 及川祐佳		秋田大学学生宇宙プロジェクト	竹澤遼		CORE	
<u>及川俰圧</u> 島崎拓己	B1		齊藤翔吾		秋田大学学生宇宙プロジェクト	
<u> </u>		神宗川人子高野研究至及び神宗川人子手由ログット部 東京工業大学CREATE	<u>質勝翔音</u> 本目将大		秋田大学学生手田プロンエクト 神奈川大学高野研究室及び神奈川大学宇宙ロケット部	
四 <u>利思寿</u> 古本航亮		CORE	<u>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</u>		仲宗川大子高野城先至及び仲宗川大子于田口グット部 CORE	
<u> </u>	ВІ		洪中 [変倒	ВІ	ロケット D	
油 沙山如	D.4	ロケット C	後藤八士	D.4		
渡邉 裕一郎	_	秋田大学	後藤公太		東京工業大学CREATE	
新井		CORE	森実 仁晃		大阪府立大学小型宇宙機システム研究センター ロケットプロジェクト	
大村徹		東京工業大学CREATE	村上正成		秋田大学学生宇宙プロジェクト	
上田裕介	B2	秋田大学学生宇宙プロジェクト	鈴木直人		神奈川大学高野研究室及び神奈川大学宇宙ロケット部	
畠山里奈		秋田大学学生宇宙プロジェクト	真壁健二		CORE	
山内実緒子		筑波大学宇宙技術プロジェクト	安井茜	_	秋田大学学生宇宙プロジェクト	
萩原圭		神奈川大学高野研究室及び神奈川大学宇宙ロケット部	星隈宇		鳥取大学宇宙開発研究会 TSATプロジェクト	
松本宗弘	B1	CORE	三川 航	B1	CORE	
古本政博		九州大学宇宙機ダイナミクス研究室	小沢尭也	M1	東京工業大学 小田・野田研究室	
松永 紘一郎		大阪工業大学	古賀 将哉	M1	東京工業大学 松永研究室	
渡邉 輔祐太		東京工業大学 松永研究室	立松裕基		日本大学 宮崎・山﨑研究室	
佐々木貴広	D1	小型宇宙機システム研究センター衛星プロジェクト	門倉美幸		創価大学衛星開発グループ	
梅崎修一	B3	小型宇宙機システム研究センター衛星プロジェクト	稲田卓	В3	小型宇宙機システム研究センター衛星プロジェクト	
田中美咲	B3	小型宇宙機システム研究センター衛星プロジェクト	渡辺 展正	B3	筑波大学「結」プロジェクト	
保田 大介	В3	大坂府立大衛星プロジェクト	飯田輝澄		小型宇宙機システム研究センター衛星プロジェクト	
新井幸	B2	芝浦衛星チーム	簑和田孔	B2	東海大学衛星プロジェクト	
小原秀典		東海大学衛星プロジェクト	青島猛弘		小型宇宙機システム研究センター衛星プロジェクト	
名座広一		創価大学衛星開発グループ	中濱広夢		創価大学衛星開発グループ	
		衛星 C	1,171	1 7 7 7	衛星 D	
大日向健人	M2	日本大学 宮崎・山﨑研究室	高木隆平	M1	東京工業大学 小田・野田研究室	
<u> </u>		東京工業大学動設計学研究室	中村聡		東海大学衛星プロジェクト	
浜田裕史		東海大学衛星プロジェクト	大島逸平		神戸大学 宇宙工学研究会『アカツキ』	
烈田恒文 船越貴寛		小型宇宙機システム研究センター衛星プロジェクト	山内翼		大阪工業大学	
<u>加险貝克</u> 隆宝 洸貴		大阪工業大学	梅本佳歩		小型宇宙機システム研究センター衛星プロジェクト	
<u> </u>		<u>へ級エネスチ</u> 小型宇宙機システム研究センター衛星プロジェクト	郭哲也			
五十 <u>風貝成</u> 保田 敦司		小至于田媛ンペナム明光センダー衛生プロジェクト 筑波大学「結」プロジェクト	堀口元気			
<u>休四 教 </u>		丸版入子・ 桁] ノロジェクト 東海大学衛星プロジェクト	松尾樹	_		
IP3					東海大学衛星プロジェクト	
柴田 雅弘		大阪工業大学	高橋秀幸	IRI	東海大学衛星プロジェクト	
瀬上陽子	B1	東海大学衛星プロジェクト				





• スケジュール

時間	項目	内容
16:20	合同イベント開始	
16:20-16:30	主旨説明	UU合同イベントの説明
16:30-16:40	ディベートの流れ	ルール説明
16:40-17:00	移動+グループ分け	会場へ移動 肯定派/否定派に分かれる
17:00-18:00	~ディベート~	ルールに基づいたディベート (デモンストレーション含む)
18:00-18:30	情報共有	結果に基づきWG内(部屋毎)で情報共有
18:30	閉会式@2-202	次期UNISON代表の総括





- UNISASの役割
- 1. ディベートの進行役
 - UNISONに議論に集中してもらうために進行役を務める
- 2. ディベートの審査員と講評
 - どちらのグループが論理的に議論できているかを評価 ※主目的はUNISONの意識を深堀することにある
 - ディベートの終了後、社会人からの観点で講評
 - □肯定派グループの評価
 - □反対派グループの評価
 - □ディベート全体としての評価





ディベートとは?

「ある特定のテーマの是非について、2グループの話し手が、 賛成・反対の立場に別れて、第三者を説得する形で議論を行う こと|

- 本日のディベートでは二手に分かれて、UNISASや社会人の 皆さんを説得してもらいます。
- 本日のポイント
 - ランダムに肯定側・否定側にチーム分けするので、個人の主義
 主張ではなく、テーマに対してポジティブ/ネガティブな面を見つめ直すことに意義があります!





UUディベートの順序

	アクション
Step 0	テーマ発表・チーム分け
Step 1	ディベート資料作成
Step 2	肯定側の主張発表
Step 3	否定側の主張発表
Step 4	相手の主張に対する指摘の検討(資料交換)
Step 5	否定側⇒肯定側指摘
Step 6	肯定側⇒否定側指摘
Step 7	ディベート資料更新
Step 8	肯定側の主張最終発表
Step 9	否定側の主張最終発表
	(休憩)
Step 10	判定結果発表by UNISAS





Step 1: ディベート資料作成

- テーマに対して、肯定側は「ポジティブ」な面を、否定側は 「ネガティブ」な面を提示
- 各チームに配られたA3用紙に主張を書き込む (イメージ:)
- 以下の点を参考に
 - UNISONの発展とは何でしょう?
 - どんな発展/課題がありますか?
 - 過去と現在の違い(団体数の違い)
 - CanSat、ロケット、衛星ならでは違い





Step 2-3: 肯定側・否定側の主張発表

- 各チームで代表者2名(メイン、サブ)を選出し、チーム内 で議論した内容を主張
 - 主張の理由をしっかり説明し、相手に分かりやすく伝える
 - 相手の主張に対する指摘をするため、メモをとることを忘れず

(肯定側) 小学校の授業にipadを導入すべきである。

その理由は・・・例)毎年、資料を流用できるので先生の負担が減る (否定側) 小学校の授業にipadを導入すべきではない。

その理由は・・・・例)発育期に文字を書く訓練の機会が失われる

Step 4-6: 相手の主張に対する指摘の検討

• Step2-3で相手チームが主張したことに対して分からなかったこと疑問点や指摘をチームで考える

(否定側)「資料を流用できる」というところはメリットにもなるが、毎年同じ資料を使用 していたら情報が陳腐かするというデメリットと考える。

(肯定側)発育期に文字を書く訓練は国語等の時間でその時間を確保し実施すべきである。





Step 7: ディベート資料更新

指摘を取りこみ、最終発表資料を作成

Step 8-9: 肯定側・否定側の主張発表(最終)

• 指摘への反論も含め、テーマに対するチームの結論を発表

(肯定側)例年、授業の方針については事前に各学校でフォローしているので資料が陳腐するリスクには少ないと考える。また資料の方が一定の質を保つことができ、結果、小学校の授業にipadを導入すべきである。

(否定側)データでの資料提示は、情報量が過多になり(教科書で十分)、かつ発育期に 文字を書く訓練の機会が失われるため、結果、小学校の授業にipadを導入すべきではない。





Step 10: 判定結果発表 by UNISAS

- どちらの主張の論理性が高かったか判定
 - 聞き手に分かりやすい話し方か?
 - 理由がちゃんと述べられているか?
 - 相手の主張を充分に理解しているか?
 - 質問に対して的確に答えているか?
 - グループ全員で議論に参加しているか?





UUディベートの順序

	アクション
Step 0	テーマ発表・チーム分け
Step 1	ディベート資料作成
Step 2	肯定側の主張発表
Step 3	否定側の主張発表
Step 4	相手の主張に対する指摘の検討(資料交換)
Step 5	否定側⇒肯定側指摘
Step 6	肯定側⇒否定側指摘
Step 7	ディベート資料更新
Step 8	肯定側の主張最終発表
Step 9	否定側の主張最終発表
	(休憩)
Step 10	判定結果発表by UNISAS





部屋割り

➤ロケットWG 2-301

➤衛星WG 2-302

➤ CansatWG 2-304

▶ディベート終了後 2-202





- グループ割り振り名簿に乗っていない人は…
 - ➤ UNISON会員
 - 所属するWGのグループに参加して下さい
 - ただし、同大学同学年と被らないようにしてください
 - ➤ UNISAS, 教員, 一般の方々
 - コメンテータとして参加していただければと思います